

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

ボイラーの高効率化と天然ガス化による
温室効果ガス削減事業

排出削減事業者名：アルバック成膜（株）

排出削減事業共同実施者名：（株）三井住友銀行

：三井住友ファイナンス&リース（株）

その他関連事業者名：（株）サイサン

目次

1	排出削減事業者の情報	2
2	排出削減活動の概要	2
2.1	排出削減事業の名称	2
2.2	排出削減事業の目的	2
2.3	温室効果ガス排出量の削減方法	2
2.4	国内クレジット認証要件の確認	2
2.5	承認排出削減事業計画からの変更項目	2
3	排出削減活動期間	3
3.1	プロジェクト開始日	3
3.2	モニタリング対象期間	3
4	温室効果ガス排出削減量	3
4.1	採用した排出削減方法論の情報	3
4.2	活動量	3
4.2.1	活動量・原単位	3
4.2.2	活動量の採用根拠	3
4.3	事業の範囲（バウンダリー）	3
5	モニタリング対象指標	4
6	モニタリング体制	5
6.2	モニタリング対象指標の QA/QC	5
7	排出削減量の計算	6
7.1	事業実施後排出量	6
7.2	ベースライン排出量	6
7.3	リーケージ排出量	6
7.4	温室効果ガス排出削減量	6
8	省エネルギー量	6

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	アルバック成膜株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	アルバック成膜株式会社
住所	埼玉県秩父市寺尾 2804 番地
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業 共同実施者名	株式会社三井住友銀行
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業 共同実施者名	三井住友ファイナンス&リース株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	株式会社サイサン

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

ボイラーの高効率化と天然ガス化による温室効果ガス削減事業

2.2 排出削減事業の目的

高効率のガスボイラーへの設備更新と A 重油から天然ガスへの燃料転換により、二酸化炭素排出量を削減する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

現在使用中の A 重油ボイラーを高効率天然ガスボイラーへ更新する。ボイラーの高効率化と天然ガスへの燃料転換を図ることにより、二酸化炭素排出量の削減が図れる。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

（個別項目の欄において具体的に記載すること。）

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

排出削減事業計画 4 項に沿って記載（計画から変更あった場合は、実際の開始日に変更して記載）。

2009 年 1 月 5 日

3.2 モニタリング対象期間

（本報告における実績報告期間）

2009 年 1 月 5 日 ～ 2009 年 3 月 31 日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画 5 項に沿って記載。

4.2.1 活動量・原単位

本削減事業においては活動量・原単位は用いない。

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業の範囲は、既存の重油ボイラーと更新後の天然ガスボイラーの燃料に由来する CO2 排出量である。これらボイラーが生産した蒸気を社外へ供給することはないため、事業の範囲は、更新する天然ガスボイラー及び更新するボイラーから蒸気の供給を受ける設備である。

5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
$F_{fuel,Pj}$	LNG ガス使用量	t/年	269.9	納品書を集計	
$HV_{fuel,Pj}$	LNG の単位発熱量	GJ/t	54.6	デフォルト値	
ε_{Pj}	事業実施後のボイラー 効率	%	ボイラー 86.4 (高位発熱量)	カタログ値より換算	
$CF_{fuel,BL}$	A 重油の単位発熱量あ たりの炭素排出係数	t-C/GJ	0.0189 (=0.7911t-C÷ 4.18605GJ÷10)	デフォルト値	
$CF_{fuel,Pj}$	天然ガスの単位発熱量 あたりの炭素排出係数	t-C/GJ	0.0135 (=0.5639t-C÷ 4.18605GJ÷10)	デフォルト値	

6 モニタリング体制

排出削減事業計画 7.2 参照

6.2 モニタリング対象指標の QA/QC

データの種類	QA/QC 手順（該当手順の無い場合、その理由を記載すること）
活動量	
事業実施後のボイラーにおける燃料使用量	・毎月初め、燃料供給会社から郵送された前月分請求書に記載された数量を、エネルギー管理者が記録表に記入しファイリングする。
単位発熱量	
燃料の単位発熱量	・方法論のデフォルト値に変更がないか確認する。
排出係数	
天然ガスの単位発熱量あたりの炭素排出係数	・方法論のデフォルト値に変更がないか確認する。
A 重油の単位発熱量あたりの炭素排出係数	・方法論のデフォルト値に変更がないか確認する。

7 排出削減量の計算

7.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
269.9t	54.6[GJ/t]	0.0135[t-C/GJ]	729[t-CO ₂ /年]
EMPj			729[t-CO ₂ /年]

7.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
364.7kl	39.1[GJ/kl]	0.0189[t-C/GJ]	988[t-CO ₂ /年]
EM _{BL}			988[t-CO ₂ /年]

7.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0[t-CO ₂ /年]

7.4 温室効果ガス排出削減量

項目		記号	
ベースライン排出量	(7.2)	EM _{BL}	988[t-CO ₂ /年]
事業実施後排出量	(7.1)	EMPj	729[t-CO ₂ /年]
リークージ排出量	(7.3)	LE	0[t-CO ₂ /年]
温室効果ガス排出削減量		ER	259[t-CO ₂ /年]

8 省エネルギー量

原油換算		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースラインー実績 (①ー②)